

国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

◎カラー特集 青年社会活動コアリーダー
育成プログラム(地方旅行)

マクロコズム 2003.5



vol. 52

(財)青少年国際交流推進センター

～高齢者・障害者・青少年分野に



▲ 阿南一成内閣府
政務官による日
本政府代表挨拶

高齢者分野

（大分県）



地元 NPO メンバーと
のセミナーにて基調講
演をするイギリス団長



▲ 平松守彦大分県知事表敬訪問



大分県社会福祉介護研修センター
にて高齢者向け製品を試す参加者



特別養護老人ホーム「日田園」を訪問

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」は、平成14年度から実施された新規事業です。平成14年度は、デンマーク（障害者分野）、イギリス（高齢者分野）、アメリカ（青少年分野）への派遣とこれら3か国から3分野の活動家の日本への招へいが行われました。日本での招へいプログラムは、東京においては分野を越えたフォーラムが実施され、地方旅行では分野毎にプログラムが組まれました。受入県では、各分野の専門に対応した訪問先が設定されるとともに、内容的にも懇談や意見交換の時間がより多く組み入れられ、まとめのセミナーも実施されました。

おける青年活動家の育成を目指して～



障害者分野

(和歌山県)

▲ ホームステイにて炬燵に日本食を体験



▲ 社会福祉法人愛徳園にて施設利用者との交流

▼ 障害者関連分野で活動する地元日本青年とのセミナーの様子



▼ 社会福祉法人和歌山身体障害者連盟を視察



(目的) 活力ある「共助」の社会を築いていくためには、地域住民やNPO等のボランティアの社会活動の充実が必要であり、今後、社会参加の裾野を広げ、ボランティア同士の連携を図ることにより、様々な分野で社会活動を拡大しつつ分野をまたがる総合的な取組を進めていくことが重要である。そのためには、活動の中心的担い手となるリーダーの養成が急務であるが、我が国においては、まだその体制が整っていない状況にある。本プログラムは、このような観点から、社会活動の青年コアリーダーの能力の向上とネットワークの形成を図るものである。

青年社会活動コアリーダー育成プログラム（地方旅行）



▲ 雲仙岳災害復興記念館を地元青年の案内により視察

青少年分野（長崎県）



▲ 歓送会にて日本語のスピーチを披露するイギリス参加者



▶ ピースセミナーにて地元青年とディスカッションをする様子

～ 報告会・閉会式～



▶ 青少年コースによる発表



▶ 大前茂内閣府大臣官房審議官よりの修了証授与

青年社会活動コアリーダー 育成プログラム

活力ある「共助」の社会を築いていくために、地域住民やNPO等のボランティアの社会活動の充実が必要であるとの強い認識の基に、各分野のリーダー育成を目指して、内閣府の下で平成14年度から開始されることとなった国際交流事業です。

本事業は、高齢者関連、障害者関連及び青少年関連の各分野の連携を図るとともに、ボランティア活動先進国のリーダーとの交流を通じて諸外国の諸事情を学び情報交換を行うことで、進んだ活動形態や組織運営を学び、社会活動の青年コアリーダーの能力の向上とネットワークの形成を図るものです。

この事業は、派遣と招へいの相互交流プログラムとなっており、14年度は、高齢者関連活動経験者はイギリス、障害者関連はデンマーク王国、青少年関連はアメリカ合衆国に、平成14年8月28日から9月6日の期間で各コース5名の派遣が実施されました。招へいについては、前述3か

国から1か国について各分野のリーダーを4名ずつと団長1名の13名を基本とした招へいが行われました。今回は、この招へいについて御紹介します。

招へいプログラムは、東京における外国招へい青年と日本の活動家が分野を越えて討議を行う「NPO運営協議会（フォーラム）」と分野毎に招へい3か国が混合で各県を訪問する地方プログラムによって構成されました。東京のフォーラムでは、3分野の様々な団体から推薦された活動家や団体職員の約60名の日本人参加者と招へい外国青年39名による熱心な討議が行われました。初めてのことと通訳を介してという慣れない条件での戸惑いも見られましたが、参加者からは基本的に高い評価を得られたようでした。

地方プログラムは、カラーページ（P.2～4）でも御紹介しましたように、高齢者は「大分県」、障害者は「和歌山県」、青少年は「長崎県」を訪

主 要 内 容

青年社会活動コアリーダー育成プログラム ……………5～6	第37回全国推進会議 ……………17
2002年夢の掛け橋プロジェクト総集編 ……7～9	ヤングリーダーズ・フォーラム参加者募集 ……18
都道府県青年国際交流機構の活動紹介 ……………10～16	平成15年度国際青年育成交流事業（招へい） 国内プログラム日程（案）…19
	平成15年度ブロック大会予定 ……………20

〈表紙の説明〉

第15回「世界青年の船」
日本国内プログラム
岩手県の小学校にて

青年社会活動コアリーダー育成プログラム

問し、関連施設への訪問はもちろんのこと、まとめのセミナーの実施やホームステイを含めた充実した内容で、外国青年から沢山の感謝の言葉を受け取りました。

第1回の招へいは、基本的に成功裏に終えることができたと思われませんが、外国青年からの印象的なコメントに「私たちは、日本で多くのことを体験させてもらったが、私たちの訪問が、日本にどの程度役にたったのか心配だ」というものがありました。

今回の招へいのねらいが、日本の実情を招へい外国青年に伝えるとともに彼らの活動形態や組織運営の進んだ部分を取り入れ、招へい外国青年も含めたコミュニケーションの継続にあるとするならば、その後半の部分をどの程度達成することができるのかは、私たち自身のこれからの努力にかかっているでしょう。

第2回の事業実施に向けて、関係者との更なる協力体制を強めて行きたいものです。

～地方プログラムの主な内容～

★大分県（高齢者分野）

- 1月29日 到着／別府市竹細工伝統産業会館にて見学及び体験学習／大分県平松知事表敬訪問／歓迎会
- 1月30日 日田市長表敬訪問／日田園施設見学／セミナー（基調講演、地元NPO・福祉関係者との意見交換）
- 1月31日 創生の里（在宅介護支援センター事例検討会に参加、施設見学）
大分県社会福祉介護研修センター（施設説明、疑似体験）／ホストファミリー交流会
- 2月1日 ホームステイ
- 2月2日 ホームステイより戻る／総括セミナー／歓送会
- 2月3日 帰京

★和歌山県（障害者分野）

- 1月29日 到着／県庁表敬訪問／社会福祉法人和歌山県身体障害者連盟訪問／歓迎会
- 1月30日 社会福祉法人愛徳園視察及び意見交換／紀州漆器伝統産業会館（蒔絵体験）
社会福祉法人琴ノ浦リハビリテーションセンター福祉工場見学
- 1月31日 名跡見学／ホストファミリー交流会
- 2月1日 ホームステイ
- 2月2日 ホームステイより戻る／セミナー／歓送会
- 2月3日 帰京

★長崎県（青少年分野）

- 1月29日 到着／オリエンテーション／市内観光／歓迎会
- 1月30日 長崎県金子知事表敬訪問／島原城見学／雲仙岳災害復興記念館見学／島原ボランティア協議会と交流
- 1月31日 フレンドリーウォーキング（ナガサキ学生平和ボランティアメンバーとともに）／ホストファミリー交流会
- 2月1日 ホームステイ
- 2月2日 ホームステイより戻る／セミナー（平和について～青年にできること～）／歓送会
- 2月3日 帰京

「2002年夢の掛け橋プロジェクト」報告編

坂本 達

昨年の5月から8か月かけて自転車で日本を縦断する「夢の架け橋プロジェクト」が、去る12月25日、無事終了いたしました。4年3か月の世界一周からずっと応援して下さっているみなさま、そして今回のプロジェクトを通じて出会った方々に支えられ、新たな目標をひとつ実現させることができました。講演も予定を上回る86会場で行わせていただくことができ、ひとえに応援して下さい、特に全国で受け入れて頂いたIYEOの方々のおかげであると心より感謝しております。

「いろいろな人たちに生かしてもらえたこと、自転車世界一周の夢を実現できたことへの恩返しに、日本の子どもたちに体験談を話し、夢を持つことの大切さを伝えたい」という思いからこのプロジェクトは始まりました。会社は「今の日本の社会に必要なこと」と認めてくれ、社外からも15もの企業がサポートしてくださいました。改めて生かされることの意味を深く感じています。

日本縦断中は子どもたちの純粋さに胸を打たれ、各地で講演を受け入れてくださる方々に励まされ前に進むことができました。子どもたちは本当に素直で、「目の前の人々が夢を実現したんだったら、僕も私も夢が叶うんだ！」と、キラキラした表情で感じる純粋さに胸を打たれました。子どもたちのために……と思ったプロジェクトですが、結局

たくさんのお話を学ばせてもらいました。

また、日本各地で受けた「おもてなし」は世界に共通するものでした。自分の住む土地を愛し、家族、地域そして仕事に誇りを持つ人たちは、「僕らは世界を回るなんてことはできないけど、坂本君みたいな人を受け入れることはできる」と自信を持っておもてなしてくれました。その度に僕は「またこの土地に戻りたい、人に伝えたい」と思われるのでした。「環境や他人ではなく自分」、子どもより「大人がどう生きるか」を突き付けられた気がします。改めてこのプロジェクトがなければ会うことのなかった方々にご縁をいただいたことを嬉しく思っています。

忠告していただいた一言、実行委員会やプロジェクトを立ち上げてくださったこと、「命をかけて」講演準備をしていただいたこと、家に泊めていただいたこと、家庭料理をご馳走になったこと、酷暑の中一緒に走ってくれた人、日本の豊かな自然、膝の痛みのメッセージ、風や太陽といったもの、今生きているということ、どこからともなく流れてくる元気がでる音楽、すべてに感謝しながら、今回はいただいた感想文、絵などでプロジェクトの様子を報告させていただきます。

今年は、ギニアで病に倒れた時に献身的看病してくれた村へ、井戸・学校建設などのプロジェ

2002年夢の掛け橋プロジェクト

クトにとりかかる予定です。拙著『やった。』の印税をこのプロジェクトに使わせていただきます。『やった。』はおかげさまで第7刷りになり、2005年からは高校の英語の教科書として採用されることになりました(MAIN STREAM、NEW STREAMの2種類、増進堂・受験研究社)。これもひとえにみなさまのおかげです。夏までは会社の仕事と講演活動を平行して行います。講演会を企画してくださり、仕事を休んで受け入れをしてくださったIYEOのみなさま、本当にありがとうございました。またお会いできるのを楽しみにしています。これからもご支援よろしく願いいたします!



●プロジェクトの記録

2002年5月5日～12月25日、走行距離：約4,500キロ、講演：68回（主に学校関係）

●走行ルート

5月：北海道（子どもの日、宗谷岬スタート）、6月：青森、岩手、宮城、福島、7月：栃木、茨城、東京、8月：埼玉、群馬、長野、富山、岐阜、愛知、9月：滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、岡山、香川、10月：徳島、高知、愛媛、広島、11月：山口、福岡、佐賀、長崎、熊本、12月：宮崎、鹿児島、沖縄（クリスマスにゴール!）

●「夢の掛け橋プロジェクト」を応援してくださった企業

(株)ニコン コダック(株) プラスビジョン(株)
キャノンデール・ジャパン パタゴニア
佐川急便(株) 三井物産マーモットグループ
オルトリーブ A&F Country キャットアイ
オーケー販売(株) (株)太陽工房 (株)シマノ
全日本空輸(株) 小川キャンパル

坂本達 HP <http://www.mikihouse.co.jp/tatsu/>

「夢の掛け橋プロジェクト」の日記、世界一周中の記録などご覧いただけます。

坂本 達

1968年、東京都出身。7歳から11歳まで父親の仕事の関係でパリに暮らし、そこで見たツール・ド・フランス（世界最大の自転車レース）に魅せられ、以来、自転車の虜に。1992年、早稲田大学政経学部経済学科卒業、同年、株式会社ミキハウスに入社。商品部、人事教育課を経て、1995年9月26日～1999年12月28日までの4年3か月間、有給休暇扱いで自転車「世界一周」へ。2002年5月5日～2002年12月25日は自転車で日本を縦断する「夢の掛け橋プロジェクト」で86会場を回り講演。現在人事で勤務のかたわら講演活動を続け、フォトエッセイ『やった。』（三起商行刊行）の印税により、お世話になったアフリカの村などに井戸・学校建設などを計画中。血液型A、3人男兄弟の真ん中。

★各地で出会った人たちの声
(ほんの一部)をお届けします★

宮城県仙台市 2年生 HOくん

いも虫をたべてみたいです。サインがほしかったです。なぜ、ひげをいっぱいはやしているのですか。いもむしはなにあじでしたか。

東京都 1年生 MMくん

ぼくはじてんしゃでせかいいっしゅうなんてできるとおもいませんでした。ゆめはさっかーせんしゅです。ずっとそのゆめをあきらめません。ずっとおとなになっても、ずっとあきらめません。ずっとそのことをあきらめません。

北海道 男性

4年3ヶ月もの有給休暇をもらうなんて、なんとわがままな。と思いました。が、ご本人にお会いしてお話を聞くうちにそれも、坂本さんのおっしゃる何事も自分次第、こちらの接し方で相手が変わるという事です。どうぞお身体に気をつけて、子供たちに夢を追いかける素晴らしさ、そして諦めなければ夢は叶うという事を伝える旅を続けてください。

岡山市立三門小学校 SHさん

私は、総合の勉強の「アジアの国しらべ」で(中略)アジアのことがよくわかったと思いました。だけど坂本さんの話をきいて、私はまだ世界のことはぜんぜん知らないんだと思いました。私達があたりまえだと思うことも、あたりまえじゃないとわかりました。

高知市立一宮東小学校 6年生 NTさん

小学5年生の時の夢が「自転車で世界一周をしたい」と思った事、それを本当になえるという心の強さにかんどうしました。自分の力だけではできない事をみんなで協力してなしとげる事はすばらしいなーと私は思います。私が一番かんどうした事は坂本さんが言った事です。「生きているのではなく、生かしてもらっている」そのとおりだと思いました。仲間や家族がいるからだと思います。



秋田県金浦中学校 3年生 AMさん

坂本さんが話していた事で、一番ドキッとしたのが「自分ができないことを人のせいにする」(中略)です。勉強なんかとくにです。やらないのは自分なのに、聞かないのは自分なのに、何かと先生に文句つけてた事、かなりあったと思います。そのところを坂本さんのおかげで、きづくことができたので、本当に感謝したいと思います。

シドニー日本人学校

金山将大君が描いてくれた日本地図！

福岡県 大牟田中学校 STさん

坂本達氏のこんな言葉が心に残りました。(2つの道のどちらかを選ぶ時に)「助言をしてもらった時に、それがまちがっていても、人のせいにはしてはいけません。最後に判断するのは自分なのだから」この言葉が、私をびびらせました。前に似たような事を、私が言ったり思ったりしたからです。私は今後、自分の事は人のせいにしないようにしようと思いました。

沖縄県 5年生 MHくん

坂本達さんにヘルメットをかぶらせてもらったことが、すごくうれしかったです。

京都府宮津高等学校 3年生 Mくん

うらやましー。正直そう思った。一人で孤独な旅路で、多くの人と出会い、多くの人に支えられ、人を感じ、八工に励まされ、極限まで追い詰められても「生」をつかみ取れる、そんな強さが持てるなんてズルイと思う。すげー。まぬけな感想だがそう思った。「当たり前が当たり前じゃない」「何事も自分次第」、他の人から聞けば生意気に聞こえそうな言葉だが、実感がこもっている分だけ重みも深みもある。「言葉が通じなくとも目で心が伝わる」期間限定の友情でも、その熱さはただものじゃない。「同じ夢がある」このことが何よりも人と人を結びつけるのだと感じさせられた。人からもらうだけじゃない、それに感謝してもそれだけではない。「恩返し」、彼にはそこまでできる。彼はそこまで考えている。カッコよすぎるじゃねーか！ 彼が再び世話になった人達に会いに行った時、彼のことを忘れてる人は絶対にはいない、私はそう断言できる。私も含め、彼を忘れられる人はそういないだろう。

栃木 IYEO より「国際理解授業 出前講座」

栃木県青年国際交流機構
会長 手塚 美保子

黒羽町立須賀川小学校 5、6 年生 20 名を対象に「国際理解授業」を行いました。1 時間目は、平成 14 年度派遣事業参加者の石塚沙知さん（タンザニア）と、平山尚子さん（世界青年の船）による訪問国についての話、2 時間目は、栃木県海外技術研修生（モンゴル、ブータン、中国、ブラジル、ザンビア）による各国の紹介やあいさつの勉強。子ども達は目を輝かせながら話を聞いていました。3 時間目は、中国からの研修生 3 人の指導で、本場の餃子を作りました。皮まで手作りなので、キャーキャーワーワーと大騒ぎで、家族へのお土産分まで 500 個の餃子を作りました。その餃子を食べながら、先生役の参加団員や研修生とおしゃべりタイムは、予定の時間を 1 時間も超

えるほど、話が弾みました。午後の 5 時間目は、生徒達の発表の時間です。前もって外国について調べておくよう宿題を出しておきました。予習国は実に様々でしたが、パソコンなどを使って非常に詳しく調べていたのには、驚かされました。当日は、水曜日ということも有りましたが、4 人の会員も手伝ってくれ、生徒達だけでなく私達もとても楽しい 1 日でした。また、地方紙の記者（栃木 IYEO の会員）が取材してくれ、新聞に大きく掲載されたので、県内の学校から多くの問い合わせが来ました。平成 15 年度は 4、5 校へ出前講座に行くことになりそうです。私達会員の特性を生かせる事業として、この出前講座はとても良いと思いますので、興味のある方はお問い合わせください。

スコットランド料理教室

～ あなたの舌で“文化”を味わってみませんか？～

静岡県青年国際交流機構
第 12 回「世界青年の船」 三田 景子

静岡 IYEO では 1 年に 1 回のペースで、外国の料理教室を開催しています。今年は 2 月 16 日に、老若男女約 30 名がスコットランドの文化を‘舌’で体験しました。

講師は静岡で ALT として活躍されている、ス

コットランド出身のルイズ・カーウッドさん。彼女の若さと気さくな性格が、料理教室をアットホームな雰囲気になりました。

5 つのグループに分かれた参加者は、ルイズさんの指示のもと、ポテト&ミートのパイ、チー

ズ&トマトのスープ、アップルスコーンそしてサラダを作りました。同じく ALT の南アフリカ人、オーストラリア人のお2人もグループに加わり、日本人参加者と一緒に、料理に奮闘されました。

お昼を過ぎた頃にはスコーンの焼けた甘い香りが会場全体を包み込み、空腹は頂点に達しました。ペコペコになったお腹をスコットランドの文化で満たし、その後ルイズさんは写真や地図を使いながらスコットランドの紹介を、そして参加者として来てくださった他の ALT のお2人も、それぞれのお国の紹介をしてくださいました。

終了後、参加者のみなさんに書いていただいたアンケートによれば、この料理教室に参加された動機は様々なようです。スコットランドに興味がある方、料理が好きな方、外国料理が好きな方など「国際交流」に興味をもっていらっしゃった方とは限りません。

ここに外国料理教室のおもしろさがあると思います。料理が好きで参加された方が、外国の方との交流のおもしろさに気付く。外国料理が好きで参加された方が、スコットランドの文化に興味を持ち始める。この料理教室が、こうした新しいおもしろさに気付くきっかけになったのではないかと思います。小学校高学年ぐらいのお子さんが、内閣府国際青年交流事業の写真パネルを、好奇心いっぱい目で眺めていた姿も印象的でした。

当日までの準備は、会場確保、案内作り、レシピ作り、買出しなど、想像以上に大変でした。たった1日のイベントの為に何故?と思われるかもしれませんが、様々な問題が起きたり、準備が大変だった分だけスタッフ間の絆もより深まり、今後の活動に活かされていくと思います。参加者からの「参加して良かったです」の一言が、とても嬉しかったです。

第5回「青年の船」の会 会員の皆様へお知らせ

お元気でご活躍のことと存じます。

30周年記念大会で決めました、沖縄でのつどいを下記のように決めました。

沖縄は、北部に最大級の水族館が誕生し、8月にはモノレールも開通します。

今、沖縄で一番、旬な街、北谷に会場を取りました、皆さん、お誘い合わせの上ご参加下さいますようご案内いたします。

日 時 2003年9月13日(土)～15日(月)

場 所 沖縄県北谷町 厚生年金会館

参加ご希望の方はこちらへご連絡頂ければ資料を送ります。ご連絡下さい。

幹事代表 根間ヒデ子 E-mail h-nema@ryucom.ne.jp 090-5388-5443

TEL/FAX 098-876-0329まで

または (E-mail sinozaki@mx.mesh.ne.jp 090-8307-0478 TEL 042-760-4262)まで

ジュンパ ラギ！（また、会いましょう！）

船と翼の会ふくしま副会長

第6回「青年の船」・2000年デンマーク団団長

橋本 正子

最初の出会い

24年前、私の家にホームステイした、マレーシアのマギーとは、長年友好を温めている。彼女が来たとき、2か月だった長男は今では大学を卒業し立派な社会人となった。長い年月を感じるが、私にとってマギーとマレーシアはいつも新鮮なものに感じられる。

「私の英語で大丈夫かな？」と不安があった出会いの頃。日本式のお風呂の説明をしたとき、次に子供が入るので詮を抜かないで下さいと言ったのだが、お風呂の中は空っぽになっていた。次に入れようと、子供を真っ裸にした母は、パニック状態だった。そんなこともあって、私は英会話の必要性を痛感し、二人の子育てをしながら勉強を続けた。その間にもマギーの結婚式や、彼女の兄弟の結婚式などに招待され、殆ど毎年2回はマレーシアを訪れていた。あれから24年。今私は近所の子供たちに英会話を教えている。常に、私が見てきた世界のことを中心に、国が違えば価値観も違うことを念頭に会話の楽しさを教えているつもりでいる。

新しい出会い

今まで実現しなかったのだが、去年中学を卒業した生徒たちに、マレーシア行きのことを話したところ、生徒も親も大変乗り気で、話がトントンと進んだ。高校入学までの1週間を利用して、3

月末日に成田を出発した。マギーの計らいで、彼女の子供さんが通っている中学校を訪問することもできた。マギーは中国系なので、その学校も中国人のみの私立学校だった。後に聞いた話だが、マレーシアの華僑の学校で最難関校だそうだ。でも生徒たちは、中国語はもちろん、マレー語、英語は全員話せる。私の生徒たちは、それを聞いて大分落ち込んだ様子であった。マレーシアでは、環境がなせる技で、日常的に周りにいろいろな人種がいて、いろいろな言語を使っているのは、当たり前のことなのだ。中学校では、先生方にいろいろと質問をされた。今度、生徒を連れて日本に行きたいです。どこがいいですか？と聞かれたので、私は胸を張って福島に来てくださいと言った。その後、その先生は日本の福島行きを決めたのだ。

12月に来るの？

その後、その先生から頻繁にメールが届くようになった。生徒8名を連れて、雪を見に行きたいと依頼された。成田から福島までどうやって行ったらいいのか？費用は？本当に雪があるのか？私たちがマレーシアに行った時、日本の円は3倍に使えた。プール付き、テニスコート付きの3部屋のコンドミニウムに泊って、一人一泊800円だった。豪華な食事をして一人200円だった。でも、日本は全てが高い。彼らは国の派遣でもないから、予算もつかない。頭を悩ませていたそのとき、会

長から「彼らの受け入れを、船と翼の会の事業にしましょう。」素晴らしいアイデアを戴いた。

彼らの雪が見たいという望みを叶えるならば、会津若松ということになり、その近辺でホームステイを募った。先生の申し出で、マレーシアの料理をすることになり、猪苗代湖に近い貸別荘を4軒借り切って、文化交流と料理教室を計画した。

計画は、福島の子会員と、ホームステイの家族を合わせて50人以上の参加があり、大盛況だった。マレーシアから来た9名は、それぞれ1品ずつ料理を作ってくれた。チキンカレーが一番人気であり、一番不人気は、何とも不思議な味でのナツメグの蜂蜜和えだった。

日本料理は、定番のてんぷら、すき焼き、おにぎり、クレープを作った。そして会津独特の「こづゆ」というおめでたいときにこの地方で必ず作られる汁物も料理した。日本の青年にとっても珍しいものだったようである。この日は、2泊3日のホームステイの後ということもあって、皆和気あいあいとしていた。料理の後、彼らはマレーシアのコスチュームに着替えて、歌やダンスまで披露してくれた。

日本側も負けずに「白虎隊」の日舞を披露した。青年たちは互いに「はらきり」とか「かたな」とか、単語を並べて、着物を着せてもらい、雪の中で写真の取り合いをしていた。パーティーが済んで夜、近くのスキー場でダンボールのそり遊びもした。一番はしゃいでいたのは先生だった。

忘れない

このイベントには、3月にマレーシアに行った生徒も誘った。彼らは、9か月ぶりに会う先生たちとの話がはずみ、8名の生徒と午前4時頃まで



一緒に遊んでいたことを後から聞いた。最後の日は、会員の車5台に分乗して、白鳥を見物、会津若松の鶴ヶ城訪問、郡山名物「薄皮饅頭」作り、クリスマスのイルミネーション鑑賞などを体験し、大いに盛り上がった。夕食のレストランでは、大爆笑の会津弁講習も行った。今でもメールで「さすけねすか？」とメッセージが送られてくる。これは、「問題ありませんか？大丈夫ですか？」という意味なのだが、その使い方が絶妙で、さすが多言語社会で生きている人たちは、言葉のマスターが早いと感心させられた。彼らは帰り際には、「雪を見たり、温泉に入ったり、着物を着たり、たくさんの人と友達になったり一生忘れられない、いろいろな経験をさせてもらいました。」と伝えてくれた。

私たちはこの言葉で、本当に嬉しくなった。お金をかけなくても、心暖まる交流は出来るのだ。中学生たちはお互いを理解しているのだ。これで私たちの活動の意義が立派に果たされた。

私は、去っていく新幹線に向かって「ジュンバラギ（また会いましょう）」と心の中で叫んだ。

第4回 アメリカ中南部教育視察 (グローバルチャレンジしまね21)を終えて

国際ネットワークしまね

事務局長 吉野 一郎

本プログラムは(財)しまね国際センターとの共催事業として、'98に「SEPA」(Shimane Education Program in America)として発足させました。それまで、アメリカ中南部諸州からの教員受け入れを行っていましたが、こちらからも出かけていき、相互交流を進めたいとの願いから企画したものです。2回の派遣の後、'01からは県の青年派遣事業の幕引きに合わせて「グロチャレ」(Global Challenge Shimane 21)に名称変更をし、教員を中心に一般県民にも呼びかけて募集(10名)を行っています。今年度は2月に10日間の予定で、セントルイス、リトルロック、ニューオーリンズを訪問し、密度の濃いプログラムを展開することができました。

さて、本プログラムの魅力は、何と言っても視察先やホームステイでの「出会い」、そして充実した内容(手前味噌?)の研修に尽きます。参加者の顔ぶれが決まり、それぞれの希望を受けてプログラムの詳細を詰めていくという、全くの手作りプログラムです。よく言えば個々のニーズに応えた、言い方を換えれば変幻自在の出たところ勝負のプログラムだとも言えます。参加者の皆さんも日を重ねるうちにそのあたりが見え始め、スタッフのいい加減さに慣れた頃には、「頼れるのは自分と通訳」という悟りの境地に達し、次第に主体

性を発揮してくるから不思議です。

しかし、こうした計画を組めるのが私たちの強みだと思っています。アメリカ側との相互交流をベースにした強い信頼関係があってこそできる事業だと自負しています。

プログラムの中心はもちろん学校視察と教育関係者との意見交換ですが、ホームステイを抜かすことはできません。向こうでは、これまでに島根に来た人たちが受け入れてくれるケースが多く、それが参加者の安心感につながっています。帰国後も受け入れ家庭とメールを交換して交流を続けている方も多く、確実に交流の輪が広がっていることを実感しています。

今年6月には、アメリカ側の中心となっている3名の方を始めとした27名の教員チームが島根を訪れます。今後も、草の根交流から新しい潮流が生まれることを願い、よりよい事業を目指したいと思います。

〔事務所〕

国際ネットワーク島根

〒690-0826 松江市学園南1-2-1

くにびきメッセ2F しまね国際センター内

『プロミス』という映画に出会って ～ 東京都 IYEO 映画上映会報告 ～

東京都IYEO事務局次長 山中 千佳子

私が『プロミス』という映画と出会ったのは2002年の5月も終わりのことだった。映画はイスラエル・パレスチナ両国の子どもに密着し、それぞれの子どもを通して中東和平の可能性を描いたドキュメンタリーである。沢山のお金を費やして作られているわけではない。登場人物は中東の普通の子も達で、有名な監督が作ったわけでもない。ハイテクなCGはおろか、映像にひとつの加工もされておらず、美しい風景を描いているわけでもない。腹の底から笑える映画でもなく、号泣する映画でもない。そこにあるただ淡々とした現実に、じんわりと感動が痛いほど胸に残った。

私が初めてこの映画を見終わった時、その感動と同時にどうしようもない焦燥感にかられた。彼らにはあの映画の中の世界が今日も、今この瞬間も現実なのに、私の中では日々少しずつ薄れていることに気がつき、焦りが不安になった。ニュースで見聞きしていたことが私の想像を遥かに超えて現実としてそこにあり、映像として私の中にリアルに残った。しかし、何をするともなくもやもや考えているだけで時間はどんどん流れた。時の流れは辛いことも癒してくれるが、大事なことも忘却させてしまう。私は幸運にもこの映画に出会えたが、まだ出会えていない人に紹介できればと思い、それが私にできることだと、東京都IYEOでの上映会の提案をしてみた。

年が明けて1月11日、行動力あるメンバーの力で映画上映会に至り、想像以上に沢山の方に『プロミス』を見ていただくことができた。映画終了後、どこからともなく沸き起こった拍手とあちこちで鼻をすする音に包まれて、私の心は初めて見終えたときの感動を取り戻し、あのとき感じた焦燥感は消えていた。「そのこと」に対して、

הבטחות ועוד Promises

The Promises Film Project

あといくつ「約束」すればいいのだろう、
世界を変えるためには。

20分と動いていない「プロミス」イスラエルとパレスチナの子どもたちが描き出す
一日を共にすることはなるのだが……

「プロミス」が取り上げるのはイスラエル人の世界だ。それは人々を取りと戻りにくいのか？
「でもそれは、子供のせい！」「子供は責任を負えない」
「イスラエルに私たちが何をすべきか」
パレスチナとイスラエル人の間に何が起きているのか？
「でもそれは、世界が知らない。この作品は、私が過去に撮った中東を撮った作品の中でもベストである。
もし私が政治家なら、次の中東和平会議は『プロミス』の上映から始めるだろう」
—— 作家を知ることは、それが人々を孤立から救う手立ての第一である ——

プロミス

都道府県青年国際交流機構の活動紹介

何も動かないことが罪なのではなく、がむしゃらに動くことばかりがいいのではなく、動く動かない以前に事実を「知ること」が大切なのだと思った。知るということは時にとっても辛いことで怖いことかもしれない。知らなければよかったこともある。何でも全て明らかにすればいいというわけでもない。しかし、苦しみや恐れは、その本質を知ること、それと向き合っ解決の糸口を見つけられるのではないか。

私も、この映画を見るまで、中東の現実の世界がどんなに厳しいものか、自分の感覚や自分を取り巻く環境からでしか想像していなかった。どこかの国の悲惨な今をリアルに想像するよりも、私の明日の幸せを夢見て追求したい、と煩惱の塊の年頃娘は考えていた。悩んでも悩んでも出口の見えないことは、個人的な問題でも、世界的な問題でも沢山ある。動かずして物事が好転することも有り得るし、一生懸命動いても物事が好転しないことも当然のように有る。しかしこの映画に出会って、この上映会を行うに至って今実感していることは、何かをしたいと強く思う気持ちがあるのならば気持ちがあせないうちに動き始めたい。体で動くという意味だけではなく、脳みそを動かすという意味でも。もちろん動いたからといっていい方向に変わらないこと、すぐに結果がでないことも多いから過剰な期待は抱けないが、動くことによって今よりいい未来に変わる可能性がほんのちょっとでもあるのならば、私はそのほんのちょっとの可能性にかけていきたい。未来に希望のない人生など、発展も進歩も成長も後退さえもなく、それはなにより面白くないのではないかと思う。自分にも世界にももっと関心を持って、誰かに任

せるのではなく、自ら未来を楽しく面白くしていきたい。

この映画会を見に来てくださった方の中には、今度は自分が中心となって上映会を行おう、と動き始めてくださった方もいる。何かが大きく変わらなくても、小さな変化が多くの人の中に生まれていけば、いずれ大きなうねりとなって、大きな力になっていくだろう。知らなければ、生まれえなかった変化である。

「人間一人の力は、無力ではなく、微力なのだ。」

この言葉を信じ、その言葉の重みを今実感している。

東京都 IYEO は、これからも「自分たちがやりたいことからどんどん」の精神で、溢れてしょうがない企画を吟味して行っていく予定です。是非一人でも多くの方とその楽しさを共有していきたいです。事業参加後の事後活動は義務ではないけれど、参加する意義や意味が感じられなければ事後活動自体の意味がないのでは、と考えています。「参加してよかった～」はもちろんのこと、「参加しないのはもったいなかった」と思えるような時間や出会いを提供していくつもりです。しばらく活動から遠ざかっていた OB や OG の方も気軽に参加できたり、一般の参加者にもできるだけ開かれた会にし、一般参加者が、IYEO の事後活動に参加することで事業を知り、事業参加を考える人が生まれることも推奨していきたいです。もちろん一緒に企画に参加してくれるメンバーもウエルカムです。

東京都 IYEO メールアドレス

lovetokyoieo@hotmail.com

青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議
日本青年国際交流機構第37回全国推進会議

	日 時	内 容	会 場
第1日目	2月22日(土)		(独) 国立オリンピック記念青少年総合センター
	13:00～14:20	日本青年国際交流機構幹事会【幹事のみ】	
	14:00～14:30	受 付	
	14:30～18:00	青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議(1日目)	
	19:30～21:30	研修グループごとのオリエンテーション懇親会	しんじゅく季膳房
第2日目	2月23日(日)		
	8:45～11:40	青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議(2日目)事務局長研修	
	11:45～12:30	全体会	
	12:40	閉 会	

以下の議事に基づいて全国推進会議が開催されました。今回の会議は、2日目に研修要素も含めて行い、若手とベテランIYEO会員が全国各地から集まり交流する貴重な機会となりました。初日の夜の懇親会では、会議参加者が思い思いの品物を持ち寄りボランティアバザーを行いました。4万円以上の収益があり、収益の20%はUNICEFへ、40%はSSEAYPメモリアルファンドへ、40%はIYEO人材育成基金へ寄贈されました。また、UNICEFからは感謝状をいただきました。このような活動も継続して行きたいと考えています。

【議事次第】

(1日目)

■内閣府より

- ・平成14年度 内閣府青年国際交流事業報告と平成15年度事業計画

■日本青年国際交流機構(IYEO)より

- ・平成14年度下半期活動報告
- ・平成14年度下半期ブロック大会報告及び平成15年度開催予定について
- ・IYEO全国大会について
- ・IYEO平成15年度活動計画(案)と予算(案)について(その他)

(2日目)

■IYEO役員都道府県会長研修

- ・危機管理について
- ・分科会(①危機管理・②IYEOの今後の方向性と共通活動プラン・③人材育成・④国際交流ガイドブック)

■都道府県事務局長研修(①地域活動の活性化・②組織運営の在り方)

■全体会



ヤング・リーダーズ・フォーラム 日本参加青年募集!

I 概要

① 目的

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業によって招へいされる「世界青年の船」事業及び「東南アジア青年の船」事業の20か国の外国人既参加青年と共に、専門分野に分かれて討議を行うものです。それぞれの分野における各国の情報を交換すると共に、21世紀の各分野のあり方、青年リーダーとしての役割等を討議し、今後の事後活動のネットワークを強化し、具体的活動を展開していくことを目指しているものです。

② 主催

内閣府、(財)青少年国際交流推進センター

③ 日本青年の参加期間(ヤング・リーダーズ・フォーラム)

平成14年9月20日(金)から同年9月23日(日)までの3泊4日間

④ 会場

独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター

⑤ 参加者

- ア. 日本参加青年 30名
- イ. 外国参加青年 20か国、80名(ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦、シンガポール共和国、フィリピン共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国、オーストラリア、カナダ、コスタリカ、エジプト、連合王国、フィジー、ギリシャ、インド、メキシコ合衆国、タンザニア)

⑥ プログラム内容

月 日	日 程	備 考
9月19日 (金)	招へい外国青年オリエンテーション 「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業 開会式(基調講演等) 歓迎レセプション ※ヤング・リーダーズ・フォーラムの日本参加青年 は希望に応じて参加可(宿泊は実費を申し受けます)	東京都 4コースに分かれる 開発・環境、教育、リーダーシップ、 マスコミュニケーション
9月20日 (土) ～9月23 日(火)	ヤング・リーダーズ・フォーラム オープニングランチパーティー ディスカッション、課題別視察等、 日本人参加青年修了式	東京都 4コースに分かれる 開発・環境、教育、リーダーシップ、 マスコミュニケーション

※「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業全体日程

9月18日 招へい青年到着、9月19日～24日東京プログラム、9月25日～28日地方プログラム

9月29日会議準備、9月30日青年賢人会議、10月1日 招へい青年帰国

Ⅱ 募集について

① 日本参加青年の資格要件

日本参加青年の資格要件は次のとおりとする

- ア 内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業の既参加青年であること
 - イ 25歳から39歳までの者であること（平成15年9月19日時点）
 - ウ 英語による日常会話以上の能力を有する者であること
 - エ 協調性に富み、事業の計画に従って規律ある団体行動ができる者であること
 - オ 日本の社会（例、政治・行政・法曹、経済・商業、科学技術、医療、農業、マス・メディア、教育、社会活動、青少年活動など）で活躍しているリーダー層の青年であること
- 特に以下の4分野のいずれかを専門としているか、深く興味を持っていること

① 開発・環境、② 教育、③ リーダーシップ、④ マスコミュニケーション

※ 日本でのプログラムにおいて、この4分野をテーマとしたディスカッション・グループが設けられる予定。外国参加青年はテーマ別に各国1名ずつ供出し4つのグループを構成する。日本参加青年はヤング・リーダーズ・フォーラムで専攻テーマに応じてそれぞれのグループの所属する。

※ 再参加は妨げるものではないが、新しい参加者を優先する。

② 参加費用

(1) 内閣府の負担する経費

プログラム参加費、宿泊及び食事代（3泊4日）

※ 東京都外在住の参加者については規定に基づいた旅費をお支払いします

※ 勤務地が東京の方はこれに該当しません

(2) 日本参加青年の負担する経費

期間中における疾病又は傷害の治療費用、旅行保険、小遣いその他の個人の用に必要な経費

③ 応募

(1) 提出書類

① 申込書（下記問い合わせ先よりお取り寄せ下さい）

② 作文（800～1,000字程度）

テーマ：「希望するコースで取り組みたいこと」

(2) 募集締切り 平成15年6月30日（木）必着

(3) 結果のお知らせ 平成15年7月20日（日）までにご連絡します

④ 書類提出先及び問合せ先

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

(財)青少年国際交流推進センター 担当：大橋玲子、本田温子

※封筒に「ヤング・リーダーズ・フォーラム応募用紙在中」と明記すること

Phone: 03-3249-0767 / Fax: 03-3639-2436

～お知らせ～ 平成15年度国際青年育成交流事業(招へい)国内受入れプログラム日程(案)

7月14日 来日

7月15日～20日 東京プログラム

7月21日～28日 地方プログラム (滋賀県、京都府、大阪府、鳥取県)

7月29日～8月2日 討議セッション

8月3日 帰国

日本青年国際交流機構 平成 15 年度ブロック大会について

IYEO ブロック大会は毎年ブロック毎に一度開催されております。平成 15 年度各ブロック開催日程をお知らせします。詳細概要は、ブリティンボード、案内郵送等によってご連絡いたしますので、ぜひとも御参加下さい。

ブロック	開催地	日 程	ブロック構成都道府県
北海道・東北	岩手県	7月5日～6日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関 東	栃木県	平成 16 年 2月7日～8日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北 信 越	長野県	8月10日～11日	新潟・長野・富山・石川・福井
東 海	三重県	9月27日～28日	静岡・愛知・岐阜・三重
近 畿	奈良県	平成 16 年 1月31日～2月1日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中 国	山口県	平成 16 年 2月7日～8日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四 国	徳島県	6月21日～22日	徳島・香川・愛媛・高知
九 州	熊本県	未 定	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

編集後記

「20世紀は、戦争の世紀」と言われ「21世紀は、平和な世紀へ」との願いの中で、現実の世界は厳しい状況が展開しています。さらに、猛威を振る

う SARS の出現は、国際交流活動にとって最も恐れるべき出来事ですが、冷静に受け止めながら確実な事業実施に努力していきたいと思ひます。

* 本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又は F A X にてお申込み下さい。年間講読料は 1,500 円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 5月号 Vol.52 2003年5月1日発行 (隔月発行)

編 集 : マクロコズム編集委員会

発 行 : 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力 : 内閣府政策統括官

(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価 : 198 円 (本体 189 円)

印 刷 所 : 株式会社 絢 文 社

TEL 03-3959-3960

都道府県青年国際交流機構 (IYEO) の活動紹介

各都道府県 IYEO では、国内における国際交流活動はもちろんのこと、海外との相互交流も年々深まり、独自のプログラムを展開しています。5月号、そして7月号では、それらの中からほんの一部ではありますが、いくつかをご紹介します。

福島県 (マレーシア青年招へい) ～ 船と翼の会ふくしま ～ (本文 P.12 参照)



◀ マレーシアの青年が餃子作りをしている様子



▲ マレーシアのコスチュームを披露

静岡県 (料理教室)

～ 静岡県青年国際交流機構 ～
(本文 P.10 参照)

▼ スコットランド料理作りに励む参加者



▲ 皆で楽しい時間を!

都道府県青年国際交流機構 (IYEO) の活動紹介



▲「国際理解授業～
出前講座」
小学校にて第15回
「世界青年の船」
事業の報告を行う



▲「研修生との交流会」
中国からの留学生が餃子の作り方を
おしえてくれました

島根県 (教育分野への派遣) ～国際ネットワークしまね～ (本文P.14参照)

▼ ニューオリンズの小学校訪問の際の学校概要説明



▼ ニューオリンズでの教育関係者とのホームパーティにて



1973年2月14日。一隻の大型客船が横浜を出航しました。歴史的な日本初の世界一周クルーズへの出発です。それが、初代「にっぽん丸」。現在の「にっぽん丸」はそれから数えて3代目です。この間、私たちは、日本のクルーズの先駆者として、新しいクルーズや様々なサービスを開発してきました。例えば、日本船初めての展望浴場などは、ほんの一例。また、私たちの長い経験の集大成である独自の船内プログラムが、他の日本客船全てのお手本になっていたりもします。ところで豪華客船でのクルーズと言うと、リタイア後の老夫婦がのんびりと旅をされているイメージをお持ちではないでしょうか。でも、「にっぽん丸」に乗船してこられるお客様は、驚く程アクティブな方が多いのです。いや、アクティブになられると言った方が正しいのかもしれませんが。これまでの人生になかった新しい体験を、船の上で得た新しい仲間達と一緒に貪欲に吸収されるのです。自ら進んで何か新しいものを得ようとする気持ちを冒険と言うとすれば、冒険には年齢や性別なんて関係ない、私たちは、そんな皆さんの想いを満足させることを一番大切に考えています。そして私たち自身も、お客様に負けないくらいに、いつも新しい事に挑戦して行こうと思っています。これまでも、ずっとそうして来たように。

冒険する生活を選びました。

冒険する生活
にっぽん丸



にっぽん丸は、米国公衆衛生局(USPH)による船舶衛生検査において、3年連続で日本船最高得点を獲得しました。

クルーズデスク フリーダイヤル
0120-791-211

商船三井客船
<http://www.mopas.co.jp>

美しい時代へ——東急グループ



旅も楽しめる合宿にしたい。



急に1週間の全国出張になった。

ひとりひとりに、満点旅行。

ONE
to
ONE



家族水入らずで楽しめるプランを。



北から南まで温泉三昧したい。

商品力、サービス力、情報力、3つのパワーで、
あなたの旅をさらに快適に。

どんな旅でも、東急観光はすべてのお客様に満足
していただきたいと願っています。そのために、オリ
ジナル旅行や団体旅行など、多彩な商品をご用意。
IT活用による最新情報入手から24時間予約まで、
リアルタイムな体制でお応えします。そして旅を熟知
した私たちのひとりひとりが、お客様の旅を親身に
なって考えます。



国土交通大臣登録旅行業第38号
©日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://www.tokyukanko.com>
<http://tour.tokyu.com>